

スルメイカ

生態的特徴等

【生態】

日本海を含む北西太平洋に広く分布する。生まれる時期の違いから主に冬季発生系群と秋季発生系群に分けられ、茨城県で漁獲されるのは主に冬季発生系群である。本系群は冬季に東シナ海で発生し、主に太平洋を北上しながら成長し、成熟が進む秋・冬季には主に日本海を南下する。

寿命は1年で、孵化後4カ月で外套長約8cm、5カ月で約13cm、6カ月で約18cm、7カ月で約22cm、8カ月で約26cm、9カ月で約28cm程度となる(図1)。主要な餌料は小型魚類や甲殻類である。

【漁法と盛期】

茨城県では主に底曳網で漁獲され、主な漁期は秋～冬季である。

【利用】

刺身、煮物、焼き物、揚げ物など、幅広く賞味される他、様々な加工品の原料として利用される。低カロリー、低脂肪、高タンパクの食材であり、タウリンやEPA、DHAなども含まれている。

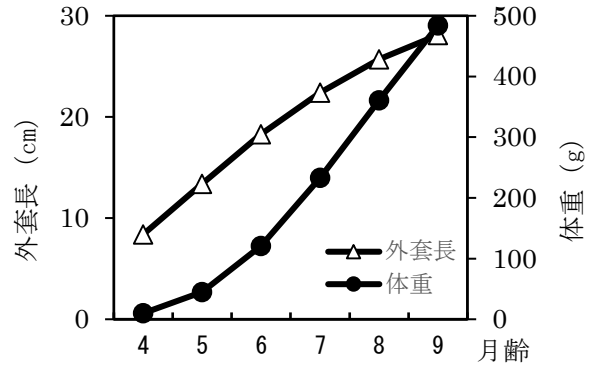


図1 スルメイカの月齢と成長(冬季発生系群)
(令和5年度スルメイカ資源評価より引用)

資源水準は低位、動向は横ばい傾向

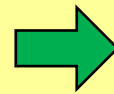
(漁獲量) 全国の漁獲量は、H1年漁期以降増加し、H8年には40万トンとなった。その後は比較的安定して推移してきたが、H28年以降大きく減少しており、H4年の漁獲量は2.0万トンであった(図2)。県内漁港における漁獲量は、回遊状況に影響されることから年によって変動があり、近年では概ね40~200トン前後で推移している。R4年は88トンの漁獲があった(図3)。

(水準と動向) 国の資源評価(R5年度)によると、資源水準は「目標管理基準値を下回り、限界管理基準値も下回る」、資源動向は「横ばい」とされている。

水準



動向



(国)

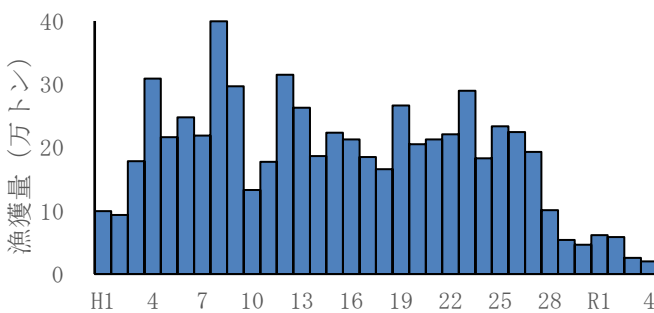


図2 全国のスルメイカ漁獲量(漁期年、水産資源研究所集計)

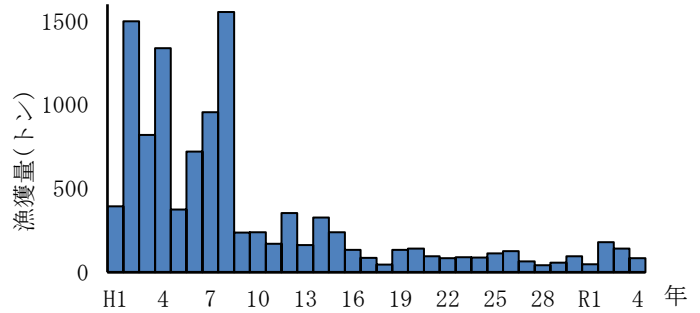


図3 茨城県のスルメイカ漁獲量(水試システム、底曳網、属地)

【全国の漁獲動向】

- 北海道が漁獲量1位、2位は青森県、3位は石川県。(R4農統)

評価期間：令和4年4月～令和5年3月 更新日：令和6年3月27日